

岐阜

新理事長に大原氏

岐阜県自動車車体整備協同組合（平野将告理事長）は五月二十五日、岐阜市のホテルグランヴェール岐阜で第十六回（第五十期）通常総会（写真）を開催。自動車技術の高度化対応や経営改善に向けた令和七年度の事業計画などを決めるとともに、任期満了に伴う役員改選で新理事長に大原孝司氏（大原自動車工業）を選出した。



大原 理事長

冒頭、平野理事長は挨拶に立ち、「大手中古車販売店による保険修理の不正請求事案が社会問題となり、

車体整備業界に対する注目度が高まった。その影響で国土交通省や金融庁など関係省庁もレバレッジ（工賃単価）の見直しに動き出している」と述べたうえで「今後は我々の業界の現場の声や実情を正確に伝えていくことが、制度改正や環境改善につながり、結果的



に業界の持続的発展にも寄与する」と力を込めた。続いて、来賓として岐阜県中小企業団体中央会事業推進課の大島達也副部長が来賓挨拶した。事業計画では、進展著しい車両のデジタル化や電動化への対応を視野に入れ、各種研修会や技術交流会を

積極的に開催するほか、若手人材の確保と定着を図るための職場環境整備に向けて、安全で効率的な作業環境の整備や柔軟な労働時間制度の導入などにも取り組み、長く働ける業界づくりを目指す。

収益基盤の安定化については、利益率を意識した工賃設定や損害保険会社との適正な交渉力を養う勉強会の開催を計画。また、支部活動の活性化を目的とした「支部支援金制度」の継続実施、各種委員会の円滑な運営を支援する「委員支援金制度」も本格運用を開始することなどを打ち出している。